

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取いなば） 4 月号

1. 第 2 回「星空舞」栽培コンテスト表彰式

3 月 3 日、鳥取県オリジナル米「星空舞」の生産技術向上を図る第 2 回栽培コンテスト(鳥取県産米改良協会主催)の表彰式が、倉吉市越殿町の J A 鳥取中央本所で開催された。

コンテストでは、応募があった令和 2 年産の「星空舞」169 点について、玄米の整粒率や食味値の合計値に加え、目視でも審査された。J A 鳥取いなばからは、個人の部で優秀賞に国岡さん(智頭町)が選ばれた。



2. 雪害野菜ハウス援農

J A 鳥取いなばでは「J A 鳥取いなば雪害対策本部」を設置し、再生・復旧に向けての資金対応や資材対応、援農時の人員の調整や確保に努めるなど営農再開を支援した。

3 月 10 日、11 日の 2 日間、積雪により全半壊した農家の野菜ハウス等の撤去作業支援を実施した。同 J A 岩美支店管内の白地と蒲生集落の復旧援農を行い、行政・J A 連合会等を含め約 20 人が参加した。



3. J A 農機 2021 春季ドリームフェア

J A 鳥取いなばは 3 月 6 日、7 日の 2 日間、春季ドリームフェア農機大展示会を鳥取市で開いた。新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、延べ 1000 名以上が来場した。

大展示会では、最新モデルの農機の展示やスマート農業機械などの実演を通じて、農作業の効率化や省力化によるコスト低減を提案した。



4. タブレット型検温機 38 ヲ所に設置

J A鳥取いなばは、新型コロナウイルスの長期化を見据え、全事業所にタブレット型検温機(センサー式アルコールスプレー付き)を 38 台設置した。組合員や来店者らに安心して利用してもらうため、2月から順次、設置を進めてきた。

検温機に顔を近づけると表面温度を測定し、手をかざすと感知センサーが反応して消毒液を自動でスプレーする。今後も機器のパネルで検温などを周知し、感染予防に努めていく。



以上